

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795400078		
法人名	株式会社 ケアサービス 豊見		
事業所名	グループホームちゃ〜がんじゅう		
所在地	沖縄県豊見城市字与根217番地2		
自己評価作成日	平成31年1月28日	評価結果市町村受理日	平成31年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=4795400078-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	平成31年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の家族さんも頻繁に訪ねてられるので利用者家族と職員とのコミュニケーションもよくとれていて訪問しやすい施設となっており、年間行事の遠足、利用者の誕生会、敬老会等利用者に喜んでいただいております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して3年になる当事業所は、集落の住宅街の中に建ち、近隣住民との関わりを徐々に深めながら、理念に沿って、利用者本位の支援に日々取り組んでいる。管理者をはじめ職員は、何事にも感謝の気持ちを忘れず、明るく・やさしく・穏やかな接遇を念頭に置き、利用者には確認の声かけをしてから支援を開始するという丁寧な対応に努めている。利用者それぞれの思いや暮らし方を尊重し、一日4本の喫煙を日課にしている利用者やカラオケで合唱する利用者、新聞の朗読が好きな利用者等の笑顔のある暮らしが継続できるよう支援している。家族の要望に応じてかかりつけ医の受診に協力し、利用者の日々の健康管理を行うとともに、訪問診療や訪問看護との24時間連絡体制を構築して継続的な医療・緊急時の医療支援が受けられる体制を整えている。食事は、3食事業所で作り、献立の内容に合わせて盛りつける器を替えるなど、工夫している。入浴は専任の職員を加えて2名体制にし、利用者個々の要望に対応してゆっくり入浴できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の朝礼で職員と唱和し、利用者と口腔体操時に唱和しております	理念は開設時に作成され、「人にやさしく」、「何事にも感謝」等を掲げ、利用者にやさしく接し、細やかなケアを実践していくための心得がわかりやすくまとめられている。職員は、利用者の状態にあった声かけや接遇について勉強会等で話し合い、利用者が安心して笑って暮らせるよう支援に努めている。朝礼での唱和や勉強会等での読み合わせを通して、共有を図っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の利用者家族が来所し、近隣の方と雑談を楽しむ場を設けることが出来交流を持つことが増えた	運営推進会議に、地域の民生委員が3名参加しており、自治会や地域に関する情報交換を行っている。地域とのつきあいは年々広がり、隣家の住民とは野菜の差し入れや事業所内の菜園作り等で日常的な交流があり、隣接する宿泊施設とも行事の時の駐車場の貸し借り等を行っている。敬老会やバーベキュー大会には家族や地域の方を招き、交流している。地域の敬老会に民生委員と一緒に参加する利用者もいる。近隣住民による菜園の草刈りや毎月1回、琉球舞踊のボランティア訪問等がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、オレンジカフェが開催できるようにする為。地域包括、民生員さんに声かけ行っております			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、行事報告、事故・ヒヤリハット等報告する、また、豊見城市内のグループホーム管理者を招き交流を図る	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、市の地域包括支援班の職員、地域代表等が参加しているが、知見者の参加は1回となっている。会議では、活動状況や事故・ヒヤリハット、行事や研修、外部評価結果の報告等がなされ、委員と意見交換等を行っている。議事録は、玄関に置き、閲覧できるようにしている。議事録については、参加者の状況や意見交換の内容が確認しづらかった。	議事録は、委員の参加状況、意見交換の内容がわかりやすい整備・工夫が望まれる。また、知見者の毎回の参加も期待される。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議にて、報告を行う場を設けており、必要に応じ市町村窓口を訪問し連絡体制を整えております	運営推進会議には、市の地域包括支援班の職員が参加している。空床状況や福祉車両の利用等については電話で包括支援班や社会福祉協議会等と連絡を取っている。研修等の案内は、担当課からFAXや郵送等で受けている。市のグループホーム連絡会と情報交換を行うなど、ネットワークの活用を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議での身体拘束委員会に参加しながら、ミーティングとは別で身体拘束検討会議を設けたり3ヶ月に一度の勉強会を行う	身体拘束をしない方針については、契約時に家族等に説明し、拘束をしない場合のリスクは、利用者の状況に応じて説明している。現在、ベッド4点柵を実施している利用者が2名おり、緊急やむを得ず拘束することに至った説明書の記録、家族の確認の署名を取っている。検討会議は実施しているが、所定の経過観察の記録は確認できなかった。運営推進会議を活用して身体拘束委員会を開催し、議事録等を整備している。職員研修も定期的の実施し、周知を図っている。	緊急やむを得ず身体拘束を行う場合は、「身体拘束に関する説明書」により利用者・家族への説明のうえ、確認の署名・押印はもとより、「緊急やむを得ない身体拘束に関する経過観察・再検討記録」として、観察記録や再検討会議の実施、及びその記録の保管が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の勉強会の際こうあつ的な言動になってないか、職員同士でも確認し合う	高齢者の虐待や不適切なケアについては、ミーティング等で話し合い、虐待の防止について共通理解を図るように努めている。声を荒げることがないよう、不適切な言葉遣いや口調について、職員間で注意し合うようにし、特に新任職員には、接遇について管理者がアドバイスをを行っている。虐待防止対応マニュアルは確認できなかった。	虐待防止対応マニュアルを整備するとともに、定期的・継続的な職員研修を実施して高齢者の虐待防止について周知徹底に努めることが望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する認識がまだ足りず積極的に研修等への派遣や外部から講師招き学習が必要である		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容を分かりやすく説明し、重要事項説明書を口頭で読み合わせし説明利用者や家族が納得した上で契約書を交わしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情申出方法を説明し、ご家族が来所時や、電話等にて意見を聞いて可能な限り要望にちかづけていく	利用者や家族等の意見や要望は、面会時や受診支援時、運営推進会議等で聞くようにしている。「訪問マッサージを利用してみたい」などの要望があり、試し期間を設定して対応し、本人や家族の選択を尊重している事例がある。運営推進会議の開催時刻が午前であれば参加可能との家族の意向を受け、検討している。現状では調整が厳しい旨を伝え、家族の参加が増えるよう検討を継続している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや、休憩時間に、要望等提案あれば、可能な限り反映する	職員の意見や要望は、ミーティングや日々の業務の中で聞くようにし、休憩時や夜勤時を利用して、管理者が個別に話を聞くようにしている。バイタルチェック表の様式の改善について職員から提案があり、平成31年2月から新様式を使用している。管理者は、日頃から職員の意見を聞く機会を増やすよう努めている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表者へ報告し、労働時間や、勤務形態等の相談に応じたり、能力や、努力に応じた報酬が得られる様取り組みます	就業環境については、法人の「就業規則」に則り、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。保育園送迎や資格取得の支援として勤務シフトの調整が行われ、講習や受験への配慮が行われている。研修参加は交通費等の配慮がある。職員の疑問や相談等には資料等を提供して話し合い、モチベーションの維持に努め、法人代表による面接を年1回実施している。全職員が年1回の健康診断を受けている。	定期的に夜勤勤務に就いている職員の年2回の健康診断の実施が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なかなかできずにいる研修派遣を内部で行ったりする取り組みに努める		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症グループホーム協会が開催する研修への派遣や、他事業所へ、施設見学を行っています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者会議に本人とご家族の意向や要望を伺い日頃の会話や行動から、不安にさせないように努力する		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族さまから得られた情報を検討して努力に努め信頼関係を築く努力を続けております		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前に事前の実地調査で本人の状態把握に努めご家族、本人が必要としている支援の手助けを行うよう努力しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者様とご家族様とのパイプ役として配慮しております		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族さまには、日常生活や身体状況の情報を報告した際にご家族様の意向なども確認して本人を支えていく関係作りに努めています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	民生委員の方や地域の方々をお誘いをしながら交流を深めていく	利用者の馴染みの人や場との関係については、契約時のアセスメントをもとに、家族や地域の方々の情報を加えて把握に努めている。友人や元後輩の来訪がある利用者、馴染みの美容室に出かける利用者もいる。県外出身の利用者が家族の企画で故郷訪問を実施している。離島出身者には、故郷のDVD鑑賞を支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動時や、外出した際など、「行ってらっしゃい」や、「お帰りなさい」が言い合える様に関りをもっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、相談等あれば助言を行ったり、支援行っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から本人の意向を把握すよう努め、個々の思いを職員間で情報を共有し、検討し、実践へつなげる	利用者の思いや意向は直接本人から聞いたり、表情や手拍子での訴え、声かけに対するうなづき等で把握している。煙草が好きな利用者には1日4本の喫煙タイムを支援し、「花や野菜を植えたい」、「洋服を買いたい」、「選挙で投票したい」等の希望に、家族やボランティアの協力を得て対応している。職員は、丁寧で穏やかな声かけをしながら、その都度利用者の意思確認を行うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族さんや入居前の介護支援専門員からの情報収集して、職員間で共有しております		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・昼のバイタルチェックで体調確認職員間で情報を共有しております		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は担当者会議において本人、ご家族、計画担当作成者、管理者、職員が参加し、主治医の助言等反映させて作成しております	担当者会議には、利用者や家族、職員が参加し、利用者の現状に即した介護計画の作成に努めている。長期目標は1～2年、短期目標は半年で設定され、6か月に1回のモニタリングを行い、定期的見直しや状態変化による随時の見直しを実施している。利用者の状態や課題を職員が共通理解し、ケアの統一を図るため、検討会議を開いている。利用者や家族の新たなニーズや意向を聞き取り、さらに介護計画に反映させる取り組みに期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録を職員間で情報を共有しながら改善・見直しを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて、訪問診療、個人の希望に応じ、訪問マッサージ、訪問歯科、取り入れております		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方からのおすそ分けの野菜、汚物処理につかう新聞紙、ごみ入れ等に利用しております		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの主治医から、状態が安定しているが、本人のご負担から訪問診療へ繋げた方や、入所時からのかかりつけ医に受診しています。必要時同行受診行っています	利用者の半数が、かかりつけ医を継続する他は、入居に伴い近くの医療機関へ変更したり、協力医による訪問診療を利用している。受診は、家族対応を基本としているが、困難時は管理者が代行し、必要に応じて同行や送迎等も支援している。受診時は、事業所作成の「病院医療情報提供書」や口頭で情報提供し、結果は、家族から口頭で受けている。訪問看護や訪問マッサージの導入、定期的な健康診断も実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーション、看護師、職員、利用者との関わりがとてもよく、緊急時対応等の体制も整えています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中医療機関に出向き情報提供行う、退院時は地域連携室等と、連携しご本人やご家族と、情報を共有し、カンファレンス参加し状態の把握に努め対応し実施しています		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針の内容を家族へ説明し、同意を頂いております	「重度化対応にかかる指針」を作成し、契約時に利用者や家族に説明し、同意を得るとともに、在宅酸素等、重度化には医療と連携し、対応している。看取りについては、訪問看護や訪問診療と24時間の連携体制を整備し、利用者の状態変化に応じて、その都度、事業所や家族、訪問診療医と話し合い、対応を検討していくこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング、研修等を通して緊急時の対処法を学び、緊急連絡先、搬送先等職員へ周知させていく、年1回程度職員には救命講習受講しています		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年2回、近隣の民泊のオーナーさんや、民生委員さんに声かけし業者を講師に実施しています	消防避難訓練は、夜間を想定し、年2回実施され、6月の訓練時は、消防署や地域住民も参加している。防災設備の点検は、業者により定期的実施され、ガスの元栓等の安全確認は毎日実施されている。備蓄については、オムツ等の生活用品を確保し、台風時は、停電に備え発電機をレンタルすることになっている。飲食料品は、昨年秋の台風発生時に使用した分の補充を課題としている。	

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者への言葉がけに配慮し、自尊心を傷つけない事、また排泄時等には、羞恥心等に注意し支援する	利用者の尊重については、職員採用時に管理者が、認知症や利用者への対応について説明し、理解に繋げている。利用者の誕生日は、当日に祝い、喫煙習慣のある利用者には時間や場所を決め支援している。個人情報利用目的については、契約時に同意を得ているが、個人情報の保護方針、及び利用目的の揭示には至っていない。居室入口は、日中ドアを開けており、長い暖簾を使用している居室もあるが、一部は設置がなく、中が見える状態である。	居室の入口については、利用者のプライバシーへの配慮が望まれるとともに個人情報の保護方針、及び利用目的の公表への取り組みが望まれる。
----	------	--	--	---	---

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が混乱したり自己決定が出来ずにいる場合などヒントや、分かりやすく説明し決定していただく		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	9人個々の時間がありこだわりがあったりと、その日の気分で支援時間を変えてみたり、グループ等変えてみたりと、負担のないように心がける		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔、整容を行い座席につく事や、入浴時のボディローション、ヘアークリーム、乳液など匂いを楽しむことを喜んでいただいています		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理をする職員にアドバイスをしたり、野菜の下処理やもやしのひげをつくろったり、利用者のエプロンを洗ったりしていただく	食事は、専従職員が昼と夕食を担当し、朝は、夜勤の職員が担当して三食、事業所で調理している。献立は、地域の食材を活用する他、県外出身者の希望で利用者の助言を得ながら正月は雑煮やおせち料理を提供し、2日は沖縄の中身汁にする等、季節や行事に配慮している。利用者は、食材の下拵え等に参加している。職員は、利用者と同じテーブルで一緒に食事をしているが、弁当を持参している。	グループホームにおいては、利用者と職員と一緒に同じ食事を楽しく食べることが大切であり、その検討が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表や、食事摂取量に記録し職員等で摂取量の把握をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回の口腔ケアは欠かさず行っており、週3回は、夜間時洗浄液で保管する		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間帯を把握し失敗を減らす努力をし、本人が気持ちよくできるようにしている	排泄支援については、排泄チェック表を活用し、利用者一人ひとりの排泄リズムを把握するとともに利用者の仕草や行動を見て声かけし、日中は全員、トイレでの排泄を支援している。夜間は、利用者の希望に添ってポータブルトイレの使用を支援したり、1時間毎の巡視時に、トイレへ案内している。身体状況や安眠に配慮し、2名が夜間のみオムツで対応している。夜間は、男性職員の配置で同性介助が困難となる場合もあり、了解を得て対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多い野菜を料理に取り入れたり乳製品や、水分摂取を多めにしたり、運動を強化する等工夫する		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる場合など口腔ケア後や、トイレ後や足浴時の誘導じに入っていたりし、月から金まで1日3,4人の割合でのんびり入っていたいます	入浴は、利用者の対応がゆっくりとできるよう専従職員と2人体制にし、週3回、月、水、金と火、木、土に分けて、朝9時～12時頃まで支援している。入浴時は、職員と1対1で話をしながら30分位入浴を楽しむ利用者や身体状況によって2人介助で対応することもある。入浴を嫌がる利用者には、足浴から入浴へ繋げたり、ボディローションや乳液等を用意し、入浴後の整容が楽しみとなるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドメイキングが行き届き清潔感にあふれ眠りたくなるよう区間となっております、		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように慎重に管理するため、薬管理箱の設置に工夫してます	処方薬は、事務室で専用の箱で保管し、服薬情報も職員間で共有できるようファイルされている。準夜勤の職員が、朝・昼・晩の薬をセットし、与薬時は、利用者の目前で袋を開け、薬を飲み終わるまで確認し、与薬状況も記録されているが、服薬支援マニュアルの整備には至っていない。事業所の記録に、薬の「飲み忘れ」をヒヤリハットとして報告している事例が見受けられた。	服薬事故防止のため、服薬支援マニュアルを整備し、職員間で周知徹底することが望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と話し合いながら計画をたて支援する努力はしているが、利用者希望を聞き出し計画を取り込むよにする		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調等様子見ながら当日ドライブや、昼間の時間帯にお茶に出かけたり、洗濯物をたたんでいただいたりしていただく	日常的には、玄関や駐車場で外気浴を行う他、車椅子の利用者3人が職員と1対1で近隣の公園に散歩に出かけている。天気の良い日は、体調の良い利用者1～2名が周辺地域へドライブに出かけることもある。行事としての遠出は、1年おきに計画し、全体的に外出の機会が少なく、外出できる利用者も限られている。個別には、職員と那覇マラソンの沿道応援に出かける利用者もあり、家族の協力を得て、地域のミニデイ忘年会参加や美容室の利用、法事等の外出を支援している。	利用者の希望や気分転換等の外出支援に積極的に取り組んでいくことが望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ちゃ〜がんじゅうでは金銭関係支援は行ってないです		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望に応じて支援を行うが、代理で職員が電話を繋げたり伝言をお伝えする場合がある		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フローアから居室の間の壁に利用者作品や写真等飾り利用者家族様や、利用者が喜んで眺めたりス自由スペースがある明るい施設です。	大きな窓に面した居間は、明るく広々とし、テレビの前にはソファを配置し、DVDやカラオケ等が楽しめるようになっている。玄関前には、利用者が喫煙できるよう椅子を置き、玄関には、靴の脱ぎ履きがしやすいようベンチを設置している。廊下の非常口近くには、外を見ながら寛げるよう椅子を置いている。浴室の洗面台は、認知症の特性を考慮して、鏡にレースを施す等、配慮されている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月15日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関口のソファでは、外が眺められ、フロアのソファでは、ゆったりテレビを視聴したりカラオケ、レク活動等などが出来るように設置しており廊下から隣接する畑を眺めるため椅子を置いたり、洗濯干し場に椅子を置き、日光浴などを行う場所を設けたりしてます		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居当初から馴染みの布団、家具、ぬいぐるみ等もってきていただいています	居室には、ベッドやクーラー、衣類かけ等が備え付けられている。利用者は、筆筒や寝具、テレビ、補聴器等を持ち込み、利用者自身が居心地よく過ごせるように職員とレイアウトしている。利用者の希望に添って、写真等を掲示し、ベッドにぬいぐるみを置いたり、家族が神社等のお札や仏像を置いている居室もある。在宅酸素利用の方の居室の壁には、大きな字で書かれた使用方法が掲示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にネームプレートを貼り利用者がまちがをわないように好みの、のれんを入居時から取り付けております		

(別紙4(2))

事業所名：グループホームちゃ〜がんじゅう

目標達成計画

作成日：平成 31 年 4 月 19 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点・課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	3	議事録は、委員の参加状況、意見交換の内容が分かりやすい整備・工夫が望まれる。また、知見者の毎回の参加も期待される。	委員への参加の呼びかけ、意見交換を録音し、記録を徹底	利用者家族に推進会議の案内分や、議事録を郵送し、フロアーでも閲覧できるようにする	6ヶ月
2	9	定期的に夜勤勤務に就いている職員の年2回の健康診断の実施が望まれる	該当者の早急の実施を行う	該当者に報告し、勤務調整を行い実施する	12ヶ月
3	16	居室の入口については、利用者のプライバシーへの配慮が望まれるとともに個人情報の、保護方針、及び利用目的の公表への取り組みが望まれる。	プライバシーへの配慮、個人情報保護の方針の知識を習得	居室の入り口には、お好みののれんを掛けてあげ、利用者のプライバシーをまもるようにする	2ヶ月
4	17	グループホームにおいては、利用者と職員が一緒に同じ食事を楽しく食べられる事が大切であり、その検討が望まれる。	利用者と職員が同じ食事を一緒に摂る楽しみをつくる	外部評価後から毎日ではないが実施しています	1ヶ月
5	20	服薬事故防止の為服薬支援マニュアルを整備し、職員間で周知徹底することが望まれる	服薬支援マニュアルの作成し職員間で周知していく	多事業者から薬箱の設置のアドバイスを受け、設置する。内服薬の確認、利用者へ声かけ、服薬者のサイン徹底し服薬支援マニュアルを作成する	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。